



令和6年度 幼児教育研修（乳児・3歳未満児保育）

「子どもが心地よさを感じる保育者の関わり」

～乳児・3歳未満児が保育者を求める姿から～

第1回 日時：令和6年7月19日（金）15：00～17：00

会場：足立区生涯学習センター

第2回 日時：令和6年9月9日（月）15：00～17：00

会場：足立区勤労福祉会館

講師：東京家政大学 准教授 堀 科 氏

現代の乳児期・幼児期の保育事情

長期間・長時間保育を利用している

子どもが起きている時間の1/3は教育・保育施設で過ごしている

日本の約半数の子どもは、乳児期・幼児期前期から保育経験ありという時代が到来している

ニーズの高まりに合わせて…

保育の場の子育て機能の債務が問われる

保育の場の保育の質が求められる



「保育の質とは何か」「保育の質がなぜ大切なのか」をワークを通して伝え合い、堀先生の講義から学びを深めました。

0.1.2歳児保育の役割と三つの機能

役割

- ①乳児・3歳未満児の生活を整え、遊びを充実させ心身の発達を促す役割



- ②保護者の子育てを支え、支援していく役割

- ③地域の子育てに対して専門的知識や技術を提供する子育て支援センターとしての社会的役割

三つの機能

- 生活遊びを充実させて発達を促す機能

- ・心地よい安定した生活の中で、健康な心と体を育てる
- ・人に対する基本的信頼感とかかわる力を育てる
- ・感じたことや考えたことを表現する力を育てる
- ・言葉に対する感覚や言葉で表現する力を育てる
- ・身近な環境に興味や好奇心を引き出す

- 保護者を支える機能

育ちの喜びを保護者と共有する
保護者の主体性や自己決定の尊重を基本とする

- 保護者の子育てを支援する社会的機能

保護者の子育ての意欲の向上へつなげる

保育所保育指針の改定では、

乳児・1歳以上3歳未満児保育に関する記載が充実された

乳児から2歳児までは、他者との関わりを初めてもち、その中で**自我が形成**されるなど、**子どもの心身の発達**にとって極めて重要な時期である。この時期の保育の在り方は、その後の成長や社会性の獲得等にも大きな影響を与えるものと考えられている。

自尊心や自己制御、忍耐力といった社会情動的スキルやいわゆる**非認知能力**を乳幼児期に身に付けることが大人になってからの生活に大きな差を生じさせる。



自己にかかわる力

自分を大切にし、
自分を高めようとする力



非認知能力を支える基礎

保育者との信頼関係
保育の質の向上



社会性にかかわる力

周りの人と
うまくやっていく力

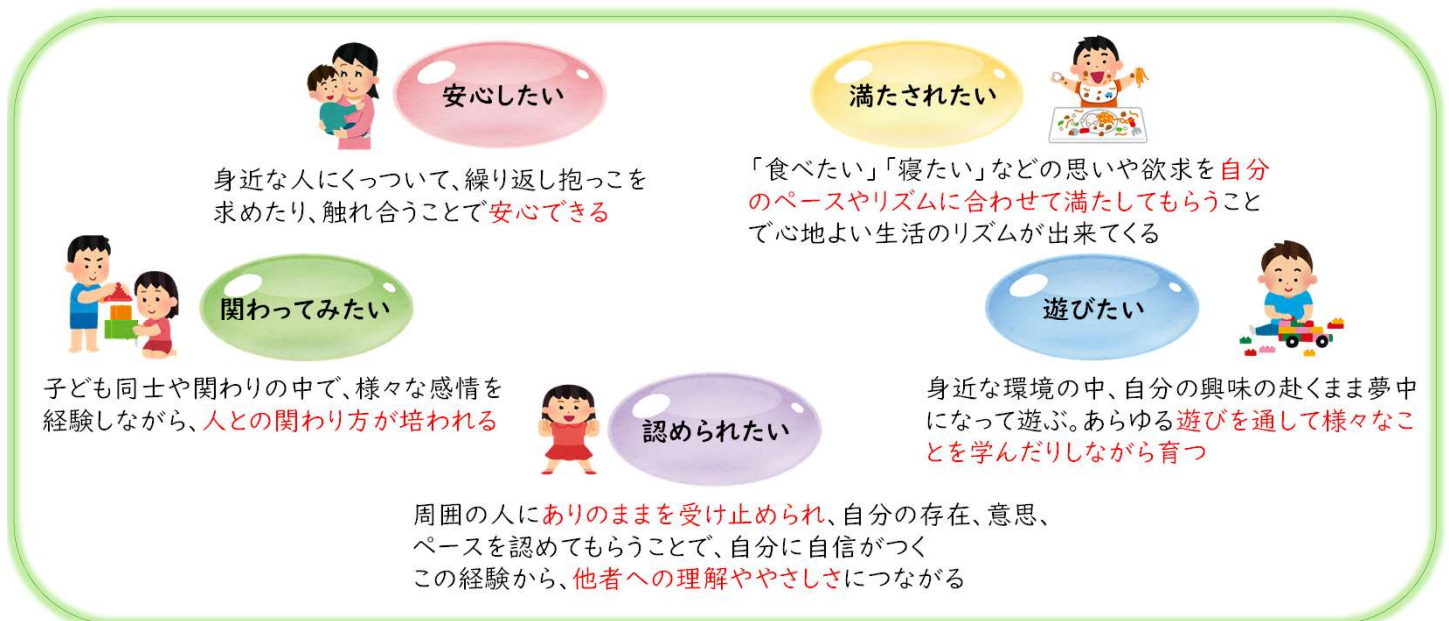
子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに生きていくことを支える環境や経験は**保育の中でこそ育まれる**

乳幼児期における人的環境の重要性

保育者は、子どもの一人ひとりの生命の維持にかかわる生理的欲求を見逃さずにタイミングよく適切にかかわり、子どもの健やかな育ちを保障し、応答的にかかわることで、**情緒的な絆=愛着（アタッチメント）を形成**していくこと。

○安心感のもとで養護と教育が提供できる=学びの芽生えにつながっていく

○乳幼児の子どもの育ちは、心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎である



愛着形成のその先を考えよう

従来は、子どもの内的状態を敏感に読み取り、それに基づいて的確に応答してきた
⇒子どもの欲求の先読みをしている

ポイント 情緒的利用可能性

子どもが自発的にシグナルを発し、何かを求めてきたときには、確実に敏感に応じる一方、子どもが何も求めてこないときは、あえてそこに踏み込まない

*遠藤利彦 「赤ちゃんの発達とアタッチメント:乳児保育で大切にしたいこと」
ひとりなる書房 2017年

感情の調節・立て直し

1歳児が保育者から離れたところで転んでしまった。
4,5歳児が「どうした?」「大丈夫?」と声をかけてもそのまま動かない。

⇒保育者が来てくれるのを待っている。

感情の調律・映し出し

食後、便が出なくて気になりだした。敏感な0歳児は、泣きだしてしまう。

⇒保育者が来てくれると「私の気持ちをわかってくれたんだ。」と表現するかのように、泣きやみ体をべったりと預け安心した姿を見せる。

★ 一人一人の欲求にどのように対応していくか、どのように見守っていくかが大切である。 ★

※ 上記は当日の資料・また講義内容からの抜粋であり、引用文献等の出典については全て記載していません。

研修生の報告書より (第1回)

保育者の関わりが子どもの成長の質に深く関わっていくこと、保育者の存在を感じながら認められて子どもの自信につながっていくことを学んだ。一緒に寄り添う中で、子どもが感じる温かな受容的な姿勢を大切にしていきたい。

乳児保育には、保護者支援・地域支援も役割に含まれていることを改めて認識した。保護者も子育て初心者の方がいることを念頭に置きながら、子育て家庭からいろいろなことを学ぶ姿勢を忘れずに、送迎時や連絡帳などを通して子どもの成長を共有していきたい。

(第2回)

乳児期の愛着形成が子どもの成長過程の中で、極めて重要な土台となりこの時に育まれた愛着が十分に満たされることで、生涯かれることのない非認知能力につながることを再認識した。

愛着は形成されて終わりではなく、そこから自立性が発達するという。安心できる存在である保育者がいるからこそ、その安心を土台として挑戦しようとする姿や感情を学ぶことにもつながっていくと学んだ。愛着形成の先が大事であることを改めて意識した。